

2017 年度
日米知識人交流事業
U.S.-Japan
Public Intellectuals Network



2017年12月2日～12月10日

ウィリアム・クリストル氏

ウィークリー・スタンダード誌編集主幹

December 2 – December 10, 2017

Dr. William Kristol

Editor at large of The Weekly Standard

「トランプ大統領時代のアメリカ政治」
“U.S. Politics in the Age of President Trump”

[東京講演会]

開催日：2017年12月5日 会場：東京大学

[Public Lecture in Tokyo]

Date: December 5, 2017 Venue: The University of Tokyo

[京都講演会]

開催日：2017年12月6日 会場：同志社大学

[Public Lecture in Kyoto]

Date: December 6, 2017 Venue: Doshisha University

日米知識人交流事業

国際交流基金日米センター（CGP）は平成27年度より米国の多様な知的コミュニティのリーダーを日本に招へいし、日米知識人のネットワークを形成する交流事業を実施しています。今年度は、ウィリアム・クリストル氏（ウィークリー・スタンダード誌編集主幹）を招へいし12月5日（於東京大学）及び12月6日（於同志社大学）にて公開講演会を行いました。

U.S.-Japan Public Intellectuals Network Program

The Center for Global Partnership (CGP) has implemented the exchange program that invites intellectual leaders from diverse communities in the United States in order to promote the networking of intellectuals in both countries since 2015. This year, we welcomed Dr. William Kristol (Founder and Editor at large of The Weekly Standard) and held public lectures on December 5th (University of Tokyo) and on December 6th (Doshisha University).

挨拶 Remarks

茶野 純一（国際交流基金日米センター所長）



日米センターは国際社会が直面する重要な共通課題を解決するため、日米両国が世界の人々とともに知恵を出し合い、協力していく必要があるという考えから、1991年に国際交流基金の中に設立されました。外交、安全保障、国際経済の分野を中心に、現代社会が直面する様々な政策的課題について、日米双方

の知的コミュニティ協力、協働によるアイデア交換を進め、その解決に向けた専門家同士の研究対話を支援するとともに、政策志向型フェローシップを通じた研究者支援や、日米双方の相手国理解の深化、拡大に向けた公開セミナーなどを通じて日米関係の緊密化に取り組んでいます。

このたび、米国との知的交流、対米理解の促進という観点から、ウィークリー・スタンダード誌創設者兼編集主幹である、ウィリアム・クリストル氏を日本に招へいし、東京、京都にて講演会を開催しました。ジャクソニアン的な世界観が支配する現在の米国において、政治の潮流は今後どのような方向に進むのか、トランプ政権の誕生と国内における亀裂の拡大は米国の保守主義にとって何を意味するのか、またこうした大きな課題に対し、ネオコンを含むウィルソニアン的な伝統保守はどう応えようとしているのか、本報告書が読者の思索を深める一助となれば幸いです。

東京講演会では、東京大学ご関係者の皆様、また京都講演会では同志社大学ご関係者の皆様より大変なご支援・ご協力を賜りました。また、本事業の企画段階から米国ユダヤ人協会に多大なご協力をいただきました。国際交流基金日米センターを代表いたしまして、心より御礼を申し上げます。

Junichi Chano (Executive Director, The Japan Foundation Center for Global Partnership)

The Center for Global Partnership was established within the Japan Foundation in 1991 to promote collaboration between the people of Japan, the United States, and beyond, in order to address issues of global concerns.

We are working to build stronger and closer ties between Japan and the United States through supporting research and dialogue between the two countries aimed at resolving a wide range of policy issues that modern societies face with an emphasis on the fields of foreign policy, national security and international economics, developing human resources through fellowship programs centering on policy research, and working to further increase interest in Japan among Americans by holding open symposiums and public seminars.

As part of our effort to promote intellectual exchange and enhance understanding of American affairs, we invited Dr. William Kristol, the founder and editor of “The Weekly Standard,” and held public seminars in Tokyo and Kyoto. We hope that the report of these seminars will help you consider; which direction the tide of politics will proceed within the current U.S. society, where Jacksonian Democracy is dominating the nation’s world-view; what does the political division in American society and the advent of Trump Administration mean to the traditional conservatives in the U.S.; and what are the reactions of Wilsonian including the Neoconservatives against these issues?

I would like to express my appreciation to the University of Tokyo and Doshisha University for their cooperation in hosting the lectures on their campuses, and also to American Jewish Committee for partnering with us in this program from the planning.

ウィリアム・クリストル

ウィークリー・スタンダード誌創設者兼編集主幹。主要な政治討論番組に多数出演。1995年にウィークリー・スタンダード誌を創設する前には、「共和党の未来のためのプロジェクト」を主導し、1994年下院選挙にて共和党を勝利へ導いた戦略形成に携わった。それ以前は、クエール副大統領の首席補佐官など、レーガン政権、ブッシュ政権にて要職を務めたほか、ペンシルバニア大学、ハーバード大学で教鞭をとった。

The Neoconservative Imagination (Christopher DeMuth との共編, 1995)、*The Future is Now: America Confronts the New Genetics* (Eric Cohen との共編, 2002)、*The War Over Iraq* (Lawrence Kaplan との共著, 2003) など、外交政策から政治哲学まで幅広い分野での著作がある。政治学博士 (ハーバード大学)。



William Kristol

William Kristol is founder and editor at large of The Weekly Standard, he appears frequently on all the leading political commentary shows. Before starting the Weekly Standard in 1995, Mr. Kristol led the Project for the Republican Future, where he helped shape the strategy that produced the 1994 Republican congressional victory. Before that, Mr. Kristol served in senior positions in the Reagan and Bush Administrations, and taught at the University of Pennsylvania and Harvard University.

Mr. Kristol has published widely in areas ranging from foreign policy to constitutional law to political philosophy. He has co-edited several books, including *The Neoconservative Imagination* (with Christopher DeMuth, 1995) and *The Future is Now: America Confronts the New Genetics* (with Eric Cohen, 2002). He is the co-author, with Lawrence Kaplan, of the best-selling 2003 book, *The War Over Iraq*.



「トランプ大統領時代のアメリカ政治」

トランプ政権の誕生はアメリカ国内の様々な分裂を浮き彫りにしました。アメリカの政治論壇ではどのような変化が起きているのでしょうか。その変化は、対日本・対アジア関係を含め今後のアメリカ外交にどんな影響を及ぼしうのでしょうか。アメリカの保守系有力誌の一つ、ウィークリー・スタンダード誌の創刊者であるウィリアム・クリストル氏が、アメリカ政治について議論しました。

- 講 師： ウィリアム・クリストル
ウィークリー・スタンダード誌編集主幹
- 日 時： 2017年12月5日(火) 18:00-19:30
- 会 場： 東京大学
- 主 催： 国際交流基金日米センター(CGP)
東京大学大学院法学政治学研究科久保文明研究室
アメリカ政治研究会
米国ユダヤ人協会 (AJC)

コメンテーター：久保 文明



東京大学大学院法学政治学研究科教授。法学博士（東京大学）。アメリカ政治、アメリカ政治史専攻。日本国際問題研究所および東京財団の客員 / 上席研究員を兼任。コーネル大学、ジョンズ・ホプキンス大学、ジョージタウン大学、メリーランド大学、パリ政治学院、ウッドロー・ウィルソン国際学術研究センターでも研究に従事。『現代アメリカ政治と公共利益』（東京大学出版会）など著書多数。2016年6月アメリカ学会・会長に就任。

ウィリアム・クリストル氏 東京大学での講演の概要

ドナルド・トランプ氏の大統領就任

ドナルド・トランプ氏のような人物が大統領に就任するのは、アメリカにとって異例の事態です。歴代大統領45人のうち、これまでの44人は選挙で選ばれて公職についた、閣僚を務めた、米陸軍で将官を務めたなどの経験があります。トランプ大統領のような純然たるアウトサイダー（部外者）が大統領になったのは、この100年で初めてです。彼は政治経験が皆無で、過

去には大統領選出馬に関心はないと発言したことさえあります。

私は、アメリカ国民がエリート層に対して抱いている不満を過小評価していました。トランプ氏のような人物が大統領に選ばれるということは、アメリカ人がこの国の進む方向性に耐えかねていたにちがいません。そのことは、ドナルド・トランプ氏とバーニー・サンダース氏の得票を見れば明らかです。サンダース

旋風は、トランプ氏の大統領就任と同じくらい注目に値する出来事です。サンダース氏もある意味でアウトサイダーでした。むしろトランプ氏ほどではないにせよ、政治的にはやはり部外者です。私が注目に値すると言ったのは、民主党支持者の45%がヒラリー・クリントン氏を拒んだことです。クリントン氏は経験豊富な政治家でしたが、人気がありませんでした。

トランプ政権の影響とその未来

トランプ氏の大統領就任から1年足らずの今、今後どうなるか不明瞭です。答えが出ていない疑問はまだ沢山あります。1期目で大統領の座を去れば、トランプ氏はアメリカの歴史にさして影響を残さないでしょう。大統領は、何でも思い通りにできるわけではないと気づきました。制度や手続きに従う必要があるからです。アメリカの様々な制度は、トランプ氏を受け入れることでその盤石性を示しました。この国の民主主義を心配する市民にとって、これは心強いことです。

リベラル派は、権力分立、連邦制、強い民間部門、市場、市民社会といった政体の長所を改めて見出しました。大統領が企業に指示したり、大学に命令したり、教会を思い通りに動かさないのは良いことです。確立された民主主義とは何か。それは、完璧ではなくホワイトハウスに多くの混乱をもたらす人物でも大統領に選ぶことができ、制度がそれを受け入れる、ということです。トランプ氏は制度の仕組みをあまり理解していませんが、そんな彼が大統領でも制度は機能しています。

2018年中間選挙では、共和党は苦戦すると予想されています。おそらく共和党は上下両院で負けるでしょう。今後2年間、民主党が議会を牛耳るのも新鮮かもしれません。私のような政治学者から見れば、トランプ氏は盤石とはいえず支持率もさほど高くありません。他方でトランプ氏には強力な支持者がいて、民主党支持者は分裂しています。

“確立された民主主義とは何か。それは、完璧ではなくホワイトハウスに多くの混乱をもたらす人物でも大統領に選ぶことができ、制度がそれを受け入れる、ということです。”



国際的な舞台でのアメリカ

国際的には数多くの重要な要素があります。アメリカは強大なプレイヤーで、こうした重要な要素を管理できます。つまるところアメリカは、自由主義国家と自由主義経済を守る上で中核を占めるのです。アメリカが現状を維持するため積極的に支援しなければ、何らかの悪影響が生じる可能性があります。オバマ大統領時代のアメリカは、積極的ではありませんでした。例えばシリアでレッドラインを明確に示さなかったため、ロシアはウクライナに侵攻し、中国は南シナ海への人工島の造成を始めました。悪者の蛮行を止めなかったのです。アメリカ国民や世界の指導者を含め、多くの人がアメリカは軟弱になったと考えました。

2017年1月に大統領に就任するのは、それが誰であれ難しい仕事だったでしょう。前政権が残した負の遺産により、アメリカの力と信頼は低下していました。オバマ氏の後任がトランプ氏というのは、理想的な状況ではありません。戦争や貿易、国際機関に関し正反対の意見を持っているからです。例えばオバマ氏はアメリカの兵器を恐れていましたが、トランプ氏は軍事力による威嚇を進んで行っているように見えます。強固な日米同盟を重視する安倍首相の姿勢は、素晴らしいものです。たとえ世界の多くの指導者が非常に困難と判断しても、安倍首相はトランプ大統領と良い関係を築きたいと考えています。もし北朝鮮に関するトランプ氏の直感が正しければ、状況は改善するでしょう。トランプ氏は間違いなく、北朝鮮との関係を進展させました。この問題では、前政権の仕事ぶりは不十分なものでした。

トランプ政権のチーム

私は、トランプ氏の外交政策顧問は優秀で、大統領を上手く抑えていると思います。

トランプ政権発足後1年未満のうちに、マイケル・フリン補佐官が解任され、代わりにH・R・マクマスター氏が起用されたのは、非常に重要な出来事でした。アメリカの外交政策に関し非常に洗練された考えをもつ人物が、フリン氏の後任になったのです。CIA トップのマイク・ポンペオ氏も、下院議員として活躍したのちCIA 長官として手腕を発揮しています。米国政府の基幹を担うのは真摯な人たちであり、こうした人たちがホワイトハウスで要職に就いていることは、重要なことです。政治経験のないトランプ大統領を、正しい方向に導くことができるからです。ただし、政権発足後、スタッフが解任あるいは更迭されるなどして、ホワイトハウスにもそれなりの混乱が生じているのは否定できません。

トランプ大統領の外交政策

トランプ大統領は、アメリカの外交政策と自由民主主義にほとんど関心がありません。これは悩ましいことです。彼は民主主義国家の指導者より、独裁者を好むように見えます。大統領がプーチン氏のような人物を好み、受け入れるのは、憂慮すべきことです。もしトランプ氏が失敗し、プーチン氏と中国が成功を取れば、多くの国は、独裁政治と国家主導型資本主義という組み合わせこそが、進むべき道だと考え始めるかもしれません。もし自由民主主義が勝利を取れば、他国もこれにならうでしょう。トランプ氏に関し私が一番心配しているのは、彼の模倣あるいは反発といった形で、他国にトランプ氏のような指導者が生まれることです。トランプ氏は、世界の指導者として理想的なロールモデルではありません。

クリントン氏もトランプ氏も、2016年には環太平洋パートナーシップ (TPP) 協定に反対しました。民主党、共和党どちらの大統領も TPP 交渉を進めていたことを考えると、これは驚くべきことです。これには地政学的に重要な意味がありました。TPP 離脱はまぎれもない損害をもたらしたと思います。アメリカが TPP のような協定から脱けると、悪印象を与えます。アメリカ



は、内政上の一時的なメリットと引き換えに、外交政策・国家安全保障上の目標を犠牲にするように見えるからです。

“国内外でリベラルな世界秩序を復活させねばなりません。私たちならできると信じていますが、それにはリーダーらによる真摯な努力が必要です”

アメリカの課題

冒頭で話したように、私たちはあまりに現状に甘んじています。自分たちが成し遂げた成果に誇りを持つべきです。過去のアメリカの指導者は、アメリカと世界を誇りに思っていました。アメリカ例外主義とは、リベラルな価値観、自由民主主義、平和、繁栄を推進する世界のリーダーになることです。アメリカの政治家や各界のリーダーは、単にそう口にするだけでなく行動を起こさねばなりません。それが国内的な課題です。この新たな課題をじっくり考え、対応に取り組む必要があります。できること、なすべきことは沢山あります。この課題を改めて考え、国内外でリベラルな世界秩序を復活させねばなりません。私たちならできると信じていますが、それにはリーダーらによる真摯な努力が必要でしょう。

モデレーターからの質問

久保: 2016年には、共和党の大統領候補指名争いに17人が立候補しました。今後もこのように多くの候補者が登場するのでしょうか。外から見て、共和党は変わると思われますか。共和党は今後どうなるのでしょうか。

クリストル: 私がトランプ氏に批判的な理由のひとつは、共和党の未来に疑問を抱いているからです。共和党の進む方向性が変われば、大問題です。共和党がトランプ的な方向へ進む可能性があります。

議会の共和党議員は、必要以上にトランプ氏の行動を容認しています。憲法より下位の規範、あるいは議論を交わす習慣なども、民主主義を形作る要素であり、民主主義にはこれらがつきものです。しかしトランプ

氏は、大統領の権限を新たなレベルに高めました。一定のレベルの議論を交わす必要があるのに、トランプ氏はこれを行っておらず、共和党議員はこうした事態をあまりに容認しすぎています。

多くの世論調査データから、トランプ氏は共和党支持者の間で今も人気があることが分かっています。

2020年は重要な年です。トランプ氏が再び大統領候補に指名されたら、共和党はトランプ氏の党になるでしょう。トランプ氏を再指名するかどうかたずねた、世論調査の結果が今日発表されました。結果は約2対1、つまり63対31でトランプ支持です。アメリカの基準に照らせば、これは高い数字ではありません。普通、現職大統領は再指名を受けるものと想定されますから。

会場からの質問

Q1 参加者: 現在の新保守主義的な外交政策について、どうお考えですか。

クリストル: 以前は、自由民主主義を代表するアメリカの力が世界の安寧の根底にあり、これに代わる存在はいませんでした。国連が動き出した時、誰もが新たな秩序が生まれるのではと期待しました。

私たちの中東への対応が遅れた結果、アフガニスタンで紛争が発生しました。私たちは今、行動をためらっています。普通はそんな状態から立ち直りますが、行動を起こさないせいで大きな代価を支払う場合もあります。私が新保守主義的な外交政策に反対するのは、シリアの例があるからです。アメリカが介入しなかったため、中東でのロシアの存在感が増しました。これは歓迎すべきことではありません。アサド政権が科学兵器を使用したにも関わらず、何の罰も受けていないことも問題です。イラクとシリアの間、介入と非介入の間に互いが満足できる妥協点があるはずですが。

Q2 参加者: 多くの専門家が、トランプ大統領はナルシストでサイコパスだと指摘しています。人格障害が疑われています。これについてどう思われますか。

クリストル: 行動の動機が何であれ、また彼が賢明で意図的にやっているかどうか分かりませんが、トランプ氏は自分がやっていることを理解しています。彼の行動の多くに目的があります。扇動的だが狂っているわけではありません。今後も、こうしたやり方で続けられる訳ではないでしょう。とはいえ、もしこれがアメリカ政治の規範になれば、損害は大きく危険を伴うと考えられます。

私は、トランプ氏の行動の多くを正当化し容認する数多くの保守派に危機感を感じています。トランプ氏に働きかけ、どうすれば事態を悪化ではなく好転させられるか、考える必要があります。保守派がそういう



考え方をもてないのは、残念なことです。私に言わせれば彼らは、消極的な（あるいは条件付きの）トランプ支持者です。

Q3 参加者: アメリカ政治の分裂を、どうすれば克服できますか。

クリストル: 国内の分裂は、外交政策に深刻な影響を与えます。一方で私たちは、国民が直面している、これまで看過されてきた課題に対応する必要があります。貿易を考えると、雇用減少に対するトランプ氏の多くの解決策は良いとは言えないものです。十分な教育を受けていない人は、昔と比べ雇用される見込みが薄いでしょう。

「この件では65%が私の政策に反対だろう。でも実行する。2年、3年、あるいは4年後には効果がでるだろう」時には、そう言ってくれる政治家が必要です。1981年に減税を実施したレーガン元大統領がそうでした。すぐに厳しい不況を迎えました。その原因は減税ではなく、インフレ抑制と金利引き下げのため政府が財政緊縮を迫られたからです。しかし最終的には、この政策がかなり効果をあげました。時には指導者があえて厳しい道を選び、その理由を国民に説明することも必要です。すぐには国民の賛同を得られないこともあります。

Q4 参加者: レーガン元大統領の減税の話が出ましたが、トランプ大統領も税制改革を実施しようとしています。トランプ政権は、これを通じて大きな影響を与えられるのでしょうか。またロシアゲートについて、今後どうなると思われますか。

クリストル: ロシアゲートに関しては分かりません。本格的な捜査が行われており、特別検察官ロバート・モラー氏は非常に真面目な人間です。私たちは馴染みない状況に置かれています。3~6カ月後に、大きな影響力を持つ出来事が起こるでしょう。おそらくモラー特別検察官が議会に報告書を提出し、議会に大統領弾劾の可能性を検討するよう求めるでしょう。

税制法案は過大評価されていると思います。共和党は何としても勝ちたいため、トランプ氏もこの法案を成立させようと決めたのです。これは政策の問題ですが、ほとんどの調査結果によると、税制改革は経済に大きな影響は与えないとされています。この法案の目

玉は、法人税率35%から20%への引き下げです。アメリカのほとんどの企業の法人税率はどのみち22%前後なので、大きな違いを生むとは思えません。赤字はいくらか増えるでしょう。20兆ドルの政府債務を考えると、これは得策ではありません。トランプ氏があれほど気にしている貿易赤字が、一層悪化するでしょう。結局、トランプ氏が考えるほどの重要性は持たないと思います。

Q5 参加者: あなたの視点から見て、トランプ政権スタッフの中で最も信頼できる人物は誰ですか。ポストは空席のままで北朝鮮外交が進んでいきます。これは問題ないのでしょうか。

クリストル: 基本的に、トランプ政権の外交政策トップは非常に優秀です。その下の第二、第三レベルでは多くの混乱が見られますが、実務レベルは問題なく機能しています。巨大な官僚機構があり、多くの問題に丸となって当たっています。

北朝鮮に関して、これまでの政策は効果をあげませんでした。20年間同じ政策をとってきたのです。その間に北朝鮮は核開発を急速に進めました。共和党、民主党どちらの大統領も方針は同じだったため、これは党派的な問題ではありません。誰が大統領になっても、北朝鮮へのアプローチを変える必要があったと思います。現大統領が野党の支持を得られず、政治システムが分裂している今の状況では、北朝鮮への対応は一層困難です。

国家が危機に直面した際、同盟国との高度な信頼関係が欠かせません。これが課題になるでしょう。マクマスター補佐官やマティス国防長官らが、この問題に時間を費やしています。彼らは、たとえ危機に陥っても良好な同盟関係を維持できるよう努力しているのです。そうすれば武力に頼らず首尾よく交渉を進め、好ましい成果をあげられます。

「トランプ大統領時代のアメリカ政治」

トランプ政権の誕生はアメリカ国内の様々な分裂を浮き彫りにしました。アメリカの政治論壇ではどのような変化が起きているのでしょうか。その変化は、対日本・対アジア関係を含め今後のアメリカ外交にどんな影響を及ぼしうるのでしょうか。アメリカの保守系有力誌の一つ、ウィークリー・スタンダード誌の創刊者であるウィリアム・クリストル氏が、アメリカ政治について議論しました。

- 講 師： ウィリアム・クリストル
ウィークリー・スタンダード誌編集主幹
- 日 時： 2017年12月6日（水） 16:40～18:10
- 会 場： 同志社大学
- 主 催： 国際交流基金日米センター(CGP)
同志社大学法学部
米国ユダヤ人協会（AJC）

コメンテーター：村田 晃嗣



同志社大学法学部教授。同志社大学法学部卒業、ジョージ・ワシントン大学留学を経て、神戸大学大学院博士課程修了。2005年より現職。その間、同学部学部長、同大学学長を歴任。博士（政治学）。専攻はアメリカ外交・安全保障政策研究。『大統領の挫折』（有斐閣、サントリー学芸賞、アメリカ学会清水博賞受賞）、『アメリカ外交』（講談社現代新書）ほか著書多数。2016年12月より京都日米協会会長。

ウィリアム・クリストル氏 同志社大学（京都）での講演の概要

講演内容は東京大学と同じ

モデレーター・会場からの質問

村田: 共和党はなぜこれほど変わったのですか。最も大きく変わった部分はどこですか。トランプ氏は在イスラエル大使館のエルサレム移転を決めましたが、今後の中東外交や中東諸国との関係にどんな影響が予測されますか？最後に、トランプ政権の対北朝鮮政策をどう思われますか。

クリストル: そうした意義深く聡明な質問に、完全にお答えするのは難しいでしょう。北朝鮮に関しては、トランプ大統領の肩をもつならば、歴代政権の政策は効果をあげなかったと言えるでしょう。北朝鮮は核開発を中止するはずでした。私たちは様々なインセンティブを提示しました。合意したにも関わらず、彼らが裏切ったのです。私たちは難しい立場にいます。北朝鮮が、他国に核兵器を売り、供与する可能性があるからです。ある意味で、北朝鮮の核開発はイランの核開発でもあります。両国は協力しているからです。非常に難しい状況であり、簡単には答えられません。中国に出来る限り圧力をかけ、彼らに北朝鮮を抑えさせるべきです。今のところトランプのやり方に異論はありませんが、今後が心配です。

イスラエルについては、私はずっとエルサレムへの大使館移転を支持してきました。首都を移転するか、どこにするかはその国が決めることです。エルサレムはイスラエルの首都です。西エルサレムの異論の余地がない場所に、大使館は移転されるでしょう。パレスチナとイスラエルの国境の最終的な解決とは無関係であるため、問題ありません。アメリカや他の諸国は、エルサレムをイスラエルの首都と認めるのを先延ばしにしています。トランプ大統領に話を戻すと、彼の政策は正しいかもしれませんが、上手く実行しなければ、やはり問題に直面するでしょう。これはギャンブルです。トランプ政権が何らかの外交努力を行っていることを期待して、この問題に関し私はトランプを擁護します。アメリカが大使館を象徴的にエルサレムに移転したことにより、ヨルダンに大規模な暴動が起きては困ります。トランプ政権が外交努力をして、根回しをしているよう期待します。

最初の質問に関しては、共和党がどれくらい変わったか私には分かりません。トランプ氏は、党の方向性



をラストベルト重視へと転換しました。ロナルド・レーガン元大統領は党内の足並みを揃えました。国内政策、外交政策に関し彼には理論がありました。トランプ氏はどちらかというと扇動家で、国民が不満を抱えている問題を取り上げます。とはいえ貿易に関しては一貫しており、日本と中国との貿易赤字を常に問題視してきました。トランプ氏は勝利や趨勢になびきます。そのため、大統領として成功を収めにくいと考えます。

Q1 参加者: 今後、アメリカのインド太平洋政策はどのようなものになりますか。アメリカは日本にどんな役割を期待しますか。

クリストル: アメリカは、外交分野で最も大きな役割を果たすようインドに求めています。中国の台頭が、インドにとって一種の警鐘でした。パキスタンの存在や、同国のテロからも、インドとアメリカ、それにイスラエルなどの諸国が直面する脅威には、共通する部分が多いことが分かります。アメリカは、日印の関係を推進してきました。日本とインドは似通った利益をもつ民主主義国家です。アメリカは世界のリーダーとして、民主主義国家同士の協力を促すべきです。アメリカは、緊張を緩和し様々な国の指導者が協力できるよう、水面下で数々の外交を展開してきました。東アジアの未来が気になるなら、こうした問題に知的資本・政治資本を投じる必要があります。よって私は、トランプ氏の「アメリカ第一主義」を懸念しているのです。



“東アジアの未来が気になるなら、こうした問題に知的資本・政治資本を投じる必要がある。”

Q2参加者：ラストベルトの有権者は、なぜトランプ大統領を支持するのですか。彼らは今後も支持し続けるのでしょうか。

クリストル：世論調査の結果、トランプ氏に投票した人はほとんど彼を支持し続けています。ただし、全員ではありません。トランプ氏は、新たな支持者を多数獲得しているわけではありません。彼の成果ではないにせよ、アメリカ経済が好調なのはトランプ氏にとって幸運なことです。国民の景況感が改善したことは、トランプ氏に有利に働いています。結局のところ、トランプ氏がラストベルトの有権者への約束を果たせるとは思えません。例えばオハイオ州やペンシルバニア州に、製鋼所が戻ってくることはありません。重要なのは、人々を再訓練し、仕事がある場所への移動を手助けすることです。人の移動を阻止してはいけません。今後状況がよくなるから、今いる場所にとどまれと言っても、何のメリットもありません。トランプ氏の解決策は間違っていますが、人は無策よりは間違った解決策を好むものです。他の候補者は、どうすべきかわかりませんでした。炭鉱業は今後も存続する、それがアメリカの未来だという振りをしても、役に立ちません。確かにアメリカは今も炭鉱業が盛んですが、天然ガスなどのエネルギーの増加を考えると、今後増えることはないでしょう。それを望んでもいません。

炭鉱で懸命に働いた多くの人々が、黒灰塵症などの病

気で早くに亡くなりました。炭鉱では悲惨な事故も起きます。家族が代々炭鉱夫だったというなら分かりますが、炭鉱業の復活を掲げるのは無責任です。教育や雇用訓練など、対応が必要な分野が沢山あります。トランプ氏は、そうした問題を利用したのです。

Q3参加者：プーチン大統領とトランプ大統領の関係について、聞かせて下さい。

クリストル：プーチン氏は曲者です。これについては、共和党も民主党も同じ意見です。実際、共和党は、プーチン氏への対応が甘いとオバマ氏を批判しました。プーチン氏は、2014年のウクライナ侵攻に対しとがめだてを受けずに済むと考えました。彼は2008年にジョージア（旧グルジア）にも侵攻しました。過去にもやりおおせた経験があるのです。ただ内政は上手くありません。国民の支持を集めるには、領土拡大とロシア帝国の再建を掲げて戦争を起こすことです。プーチン氏が世界各地で力を誇示できるのは、アメリカにとって良い兆候ではありません。もし中国やロシアを見た人々が、これが進むべき道だと考えるとすれば厄介です。

世界の人、政府、政界指導者に、習近平氏やプーチン氏のやり方が正しいと思って欲しくありません。彼らの道が魅力的に見えないよう手を打つべきですが、思うように効果は上がっていません。プーチン氏は受け入れがたい指導者で、アメリカやヨーロッパで、選挙にも干渉しています。プーチン氏に強硬な姿勢で臨むことが重要ですが、トランプ政権下では難しいでしょう。



“U.S. Politics in the Age of President Trump”

The 2016 U.S. Presidential Election revealed divisions in various aspects of American society. What are the reactions in the political and journalistic arena in the U.S.? What kind of potential impact will these changes have on the path of U.S. foreign policy? Dr. William Kristol, the founder of “The Weekly Standard,” a leading conservative magazine, discussed American political trend.

- **Lecturer:** William Kristol
Editor at large of The Weekly Standard
- **Date & Time:** Tuesday, December 5, 2017 18:00-19:30
- **Venue:** The University of Tokyo
- **Organized by:** The Japan Foundation Center for Global Partnership
The University of Tokyo, Faculty of Law, the office of Dr. Fumiaki Kubo
The A. Barton Hepburn Professor of American Government and History
Study Group in American Politics
American Jewish Committee

Commentator: Fumiaki Kubo



Dr. Fumiaki Kubo is A. Barton Hepburn Professor of American Government and History at the Graduate School for Law and Politics, The University of Tokyo. Dr. Kubo is affiliated with the Japan Institute for International Affairs as a Senior Scholar, as well as with the Tokyo Foundation as a Senior Research Scholar. He studied at Cornell University, Johns Hopkins University, Georgetown University, University of Maryland, and SciencesPo in Paris. He was a Japan Scholar at the Woodrow Wilson International Center for Scholars in 2014. He is the author of many books which include: A Study on the Infrastructure of American Politics. From June, 2016, he is the President of the Japanese Association for American Studies.

Summary of Dr. William Kristol’s Lecture at the University of Tokyo

The Presidential Election of Donald Trump

Having someone like Mr. Donald Trump as President is unprecedented for the United States. There have been 45 American presidents. The first 44 had either

served in an elected office, in the cabinet, or had been general officers of the United States Army. In the last century, President Trump is the first genuine outsider to become President. He has absolutely no political

experience. In the past, he had even expressed his disinterest in running for the position of president of the United States.

I underestimated how unhappy people were with the elite in America. In order for someone like Mr. Trump to become elected president, people must have been very fed up with the direction in which America was going. It manifested itself in the Mr. Donald Trump and Mr. Bernie Sanders votes. The events around Sanders are almost as noticeable as Mr. Trump becoming the President. Sanders was also a bit of an outsider. Of course, not as much as Mr. Trump, but still an outsider politically. The fact that 45% of the Democrats rejected Mrs. Hillary Clinton is what I mean by noticeable. Mrs. Clinton was a very experienced politician, but she was not popular.

The Impact and Future of the Trump Administration

Being less than a year into the Mr. Trump presidency, we are still unsure how it will turn out. There are still many unanswered questions. Mr. Trump will not leave much of an effect on American history if he is a one-term president. The President realized that he can't do whatever he wants. There is a system and process that he has to follow. The American institutions have proven to be robust by absorbing Mr. Trump. This is reassuring for the citizens who care about American democracy.

Liberals have rediscovered the virtues of the constitution: the separation of powers, federalism, a strong private sector, markets, and civil society. It proves to be good that the President can't order businesses to do x, y, and z; can't order universities to do a, b, and c; can't order churches to do whatever he wants. What does it mean to be a well-established democracy? It means that you can elect someone who isn't perfect and has a lot of turmoil in the White House, and the system absorbs it. Mr. Trump doesn't know much about how the system works, but

“What does it mean to be a well-established democracy? It means that you can elect someone who isn't perfect and has a lot of turmoil in the White House, and the system absorbs it.”



the system still functions with someone like that as president.

The prediction is that the Republicans will not do very well in the elections in 2018. The Republicans will probably lose the House and maybe lose the Senate. It could be refreshing to have the Democrats control Congress for the next two years. To a political scientist, Mr. Trump does not look very strong. His favorability ratings are not very high. On the other hand, he has strong supporters, and the Democrats are split.

America on the International Level

There are many important factors on the international level. America is a strong player and able to manage these important factors. Ultimately, America is at the core of the defense of the free nations and the economic system. Without the U.S. actively helping to keep things going, there could be some negative effects. Under President Barack Obama, we were not actively helping so much. For example, the failure to enforce the redlines in Syria, Putin invading Ukraine, China starting to build islands in the South China Sea. We didn't stop bad actions by bad characters. Many people, American citizens and world leaders, believed America had become soft.

So anybody who became president in January 2017 would have had a tough job. The U.S.' power and credibility were reduced with the previous administration. Obama followed by Mr. Trump is not an ideal situation, because they have opposite views on war, trade, and international institutions. For example, Obama was afraid of America's war machine, and Mr. Trump seems eager to threaten

with it. It's impressive that Prime Minister Abe decided the strength of the US-Japan alliance is important. Abe wants to get along with Mr. Trump even though it has proven to be very difficult for many world leaders. If Mr. Trump's instincts about North Korea are correct, we could end up in a better situation. He certainly has made progress with North Korea. The previous administrations didn't do a very good job with that.

Trump's Team

I think Mr. Trump's foreign policy advisors are good. They are constraining Mr. Trump in a good way.

The replacement of U.S. National Security Advisor Mr. Michael Flynn by Mr. H.R. McMaster less than a month into the Trump presidency was a very important moment. Mr. Flynn was replaced by someone who has a very sophisticated view of American foreign policy. Also, Mr. Mike Pompeo, the head of the CIA, is a very strong congressman who has become a strong CIA director. People running the major parts of the U.S. government are serious people. It is a good thing that we have these people in the top positions of the White House. They can steer President Trump, who has no political experience, in the right direction. The White House has had its share of turmoil during this administration. For example, staff members being replaced or fired, and general unrest.

President Trump's Foreign Policy

I am distressed by the fact that President Trump has very little interest in American foreign policy and liberal democracy. He seems to like dictators more than he likes democratic leaders. His acceptance of and taste for people like Mr. Putin is truly alarming. If Mr. Trump isn't successful, and Mr. Putin and China are, lots of countries could start to decide that authoritarian politics combined with a kind of state-directed capitalism could be the way of the future. Hopefully, liberal democracy will win, and countries will support and follow it. The thing that worries me the most about Mr. Trump is that he could lead to Trump-like leaders in other countries, either imitating or reacting against him. He is not a good role-model as a world leader.

Regarding the Trans-Pacific Partnership (TPP) Agreement, both Mrs. Clinton and Mr. Trump turned against it in 2016. This is surprising because



it was something that was negotiated by presidents of both parties. Also, it was of considerable geopolitical importance. I think walking away from the TPP has done real damage. It looks bad for the U.S. to walk away from agreements like the TPP. It makes the U.S. look like they will sacrifice foreign policy and national security objectives for temporary domestic political advantage.

America's Challenges

As I said at the beginning, we have become much too complacent. We should take pride in what has been accomplished. American leaders in the past also took pride in America as well as in the world. American exceptionalism is to be a world leader promoting liberal values, liberal democracy, peace, and prosperity. I do think American politicians and leaders of all types need to go beyond simply talking about this. Action needs to be taken. That is a challenge we have domestically. We really have to think through these new challenges and commit to dealing with them. I think there is much that we can and need to do. We need to rethink these challenges, and revitalize the liberal world order domestically and abroad. I am confident we can do it, but it's going to take serious effort from our leaders.

“We need to rethink these challenges, and revitalize the liberal world order domestically and abroad. I am confident we can do it, but it's going to take serious effort from our leaders.”

Questions from the Commentator

Kubo: In 2016, there were 17 candidates in the Republican Party. Do you think this number of candidates can be repeated or will happen more frequently? As an outsider, do you think the Republican Party will change? What do you think will happen with the Republican Party?

Kristol: One reason I've been so critical of Mr. Trump is because I do think the future of the Republican Party is in question. It matters if the American Republican Party goes in a different direction. I think there is a chance that it will go in a Trump-like direction. The Republicans in Congress excused his behavior much more than they needed to. Part of democracy is also about sub-constitutional norms or habits of discourse. This is always present in a democracy, but

Mr. Trump has taken it to a new level for a president. You need to preserve a certain level of discourse. Mr. Trump has not done that, and I think the Republicans have excused that too much.

There is a lot of polling data showing that Mr. Trump remains popular with the Republican voters.

2020 is the important year; if Mr. Trump is renominated, the Republican Party would be a Trump party. There's a poll just out today asking people if they would renominate Mr. Trump. The result was about two to one, 63–31, for Mr. Trump, which is not strong by American standards. Normally, the president is expected to be renominated.

Questions from the Audience

Q1 Participant: How do you define and/or think about neoconservative foreign policy now?

Kristol: American power on behalf of liberal democracy was core to the wellbeing of the world, and there was no real substitute for it. Everyone hoped that we could have a new order, where the UN was going to run things.

We were slow to act in the Middle East, and that led to Afghanistan. Maybe we're having a period of reluctance. Usually, we recover and get over it, but sometimes we pay a big price for not acting. Syria would be my instance against neoconservative foreign policy. The U.S.'s failure to intervene allowed Russia to become a major player in the Middle East, which isn't a good thing. The Assad Regime got away with using chemical weapons, which isn't a good thing. So maybe there's a happy middle ground between Iraq and Syria, between intervention and non-intervention.

Q2 Participant: Many experts are saying President Trump is a narcissist, and that he is a psychopath. Maybe a personality disorder is what is being suggested. So what is your view on that?

Kristol: Whatever the motivation of his actions, whether he's clever and doing it on purpose, he knows

what he is doing. A lot of what he does is purposeful. It's demagogic, but it's not crazy. Things will not always be this way. However, I think it could be damaging and dangerous if this becomes the norm in American politics.

I am alarmed by the number of conservatives who have rationalized and excused so many things that Mr. Trump has done. Let's work with him. Let's figure out how to make things go better rather than worse. It is domestically distressing that conservatives haven't taken that view. I would call that being a reluctant or conditional President Trump supporter.



Q3 Participant: How do we heal the domestic divide of U.S. politics?

Kristol: The domestic divide has serious foreign policy implications. On the one hand, we do need to attend to the issues that people have and that were neglected. Mr. Trump has a lot of bad solutions to job loss because of trade. If you're less well-educated, your prospects are not as good as they once were.

Sometimes you need a political leader who just says, "In this case, maybe 65% of the people are against me, but I'm going to carry through on this policy. You'll see in two, three, or four years that it will work." Mr. Reagan is a good example of this as he implemented tax cuts in 1981. We promptly went into a very tough recession – not due to the tax cuts, but due to the fact that the government had to tighten so much to get rid of inflation and get interest rates down – it ended up working out pretty well. There's a kind of toughness that political leaders have to have sometimes, and then explain the case to the public. Sometimes, the public doesn't agree with you right away.

Q4 Participant: Mr. Reagan's tax cut was just mentioned. President Trump is trying to carry out tax reform. So concerning the Trump administration, is this going to be a critical point of impact? Also Russiagate, what do you think will happen to that?

Kristol: On Russiagate, we just don't know. There's a serious investigation. Mr. Robert Mueller, Special Counsel for the U.S. Department of Justice, is a very serious person. We're in an unfamiliar situation. Something with a heavy impact will happen in three to six months. The special council will report. Maybe he will send a report to Congress suggesting Congress looks into the possibility of impeachment.

On the tax bill, I think it's been overrated. Republicans desperately want a victory, so Mr. Trump has decided that this tax bill is the great thing that we're going to pass. It's a matter of policy, but I think most of the studies suggest it's not going to have a huge impact on the economy. The most dramatic thing in the bill is the corporate tax rate which is cut from 35% to 20%. Most American corporations pay about 22% corporate rate anyway, so it's unlikely to make a big difference. I think it'll increase the deficit some, which is not good when we're \$20 trillion in debt. It'll probably make the trade deficit worse even

though Mr. Trump cares so much about that. I think it will not end up being nearly as important as Mr. Trump wants it to be.

Q5 Participant:

From your point of view, among President Trump's staff, who do you think is most credit-worthy? Who do you think is most reliable? With the vacant positions, North Korea policies are progressing. Do you think that is acceptable?

Kristol: Generally, the foreign policy leadership under Mr. Trump is pretty good. There's a lot of chaos at the second and third levels. At the staff level, things are working pretty well. We have a big bureaucracy. We all work together on a million issues.

On North Korea policies, the previous policies didn't work. We had the same policies for 20 years. They were moving ahead on the nuclear program quite rapidly. We had it under presidents of both parties, so it's not a partisan matter. I think anyone who became the president would have had to take another approach at North Korean policies. It's harder when the current president has no support from the other party and the political system is as divided as it is now.

A high degree of trust among allies is vital when a country enters a crisis. That's going to be a challenge. This is where people like U.S. National Security Advisor McMaster and U.S. Secretary of Defense James Mattis spend a lot of time thinking. They try to make sure that if we get into a crisis, the ally relationships are good enough. This will allow us to move ahead in a successful way without using force to achieve an acceptable outcome.



“U.S. Politics in the Age of President Trump”

The 2016 U.S. Presidential Election revealed divisions in various aspects of American society. What are the reactions in the political and journalistic arena in the U.S.? What kind of potential impact will these changes have on the path of U.S. foreign policy? Dr. William Kristol, the founder of “The Weekly Standard,” a leading conservative magazine, discussed American political trend.

- **Lecturer:** William Kristol
Editor at large of The Weekly Standard
- **Date & Time:** Wednesday, December 6, 2017 16:40-18:10
- **Venue:** Doshisha University
- **Organized by:** The Japan Foundation Center for Global Partnership
Faculty of Law, Doshisha University
American Jewish Committee

Commentator: Koji Murata



Dr. Koji Murata is a professor of Faculty of Law, Doshisha University, teaching International Relations: especially US foreign policy and national security. He was President (2013-2015) and the Dean of the Faculty of Law (2011-2012) of Doshisha University. Dr. Murata holds a B.A. in Political Science from Doshisha University, a M.A. and Ph.D. in Political Science from Kobe University and M.Phil. in Political Science from the George Washington University. His publications include "The President's Failure: President Carter's U.S. Troop Withdrawal Policy from South Korea).

Lecture at Doshisha University in Kyoto

(The content of the lecture was same as the one given at the University of Tokyo.)

Questions from the Commentator and the Audience

Murata: Why has the Republican Party changed so much and what is the biggest area of change? Also, with Mr. Trump's decision to relocate the U.S. Embassy in Israel to Jerusalem, what influence can we predict on Middle East diplomacy and relations with Middle Eastern countries going forward? Lastly, what is your perception of the Trump administration's policy toward North Korea?

Kristol: Those important and intelligent questions will be quite difficult for me to answer in their entirety. Regarding North Korea and in defense of President Trump, the policies of previous administrations both Republican and Democratic did not work. North Korea was supposed to give up their nuclear program. We offered them various incentives. Deals were made which they cheated on. We are in a difficult position because North Korea could sell or give those nuclear weapons to other countries. In a way, the North Korean nuclear program is also an Iranian nuclear program because they cooperate together. It's a very difficult situation, and I don't have an easy answer. As much pressure as possible should be put on China for them to help rein in North Korea. I don't have an objection to what Mr. Trump has done so far, but I worry about the future.

Regarding Israel, I have always supported moving the embassy to Jerusalem. We have no say whether a country moves its capital and where. Jerusalem is the capital of Israel. The embassy would go in an uncontested part of West Jerusalem. So I do not see the issue because it is not about the ultimate resolution of lines between Palestine and Israel. It is overdue for the United States and other countries to acknowledge Jerusalem as the capital of Israel. This comes back to the problem with Mr. Trump. He could have the right policy, but if he doesn't execute it well, he could still be facing the issues. It is a gamble, but I would defend the Trump administration on this, hoping that they have done some diplomatic work. We don't want major civil unrest in Jordan because we symbolically moved our embassy to Jerusalem. So I hope the Trump administration has done some diplomatic work and laid the groundwork.

Regarding your first question, it is not clear to me how much the Republican Party has changed. Mr. Trump reoriented the party to the Rust Belt. The



former president Ronald Reagan changed the party in a coherent direction. He had a theory of domestic and foreign policy. Mr. Trump is more of a demagogue who picks up whatever issues people are upset about. However, he has been consistent on trade. He has always disliked the trade deficit with Japan and China. Mr. Trump follows the wins and the trends, which I think makes you less likely to be a successful president.

Q1 Participant: What will the U.S. policy on the Indo-Pacific be as we go forward, and what role does the U.S. expect Japan to play?

Kristol: I believe the United States government has encouraged India to play more of a role in foreign policy. The rise of China was a kind of wake-up call for India. Pakistan and terrorism from Pakistan also meant that India, the United States, and other countries like Israel had a lot in common in terms of some of the threats they faced. The U.S. government has encouraged the India-Japan relationship. They are two democracies with similar interests. As a world leader, one of the things the U.S. must try to do is to encourage democracies to work together. The United States has done a lot of behind-the-scenes diplomacy to reduce tensions and get the leaders of different countries to work together. If you care about the future of East Asia, you have to spend intellectual and political capital working on these kinds of matters. This is why I worry about President Trump's "American first" attitude.



“If you care about the future of East Asia, you have to spend intellectual and political capital working on these kinds of matters.”

Q2 Participant: What are the reasons for the support of President Trump by the people in the Rust Belt? Also, will they continue to support him?

Kristol: The polls suggest that most Mr. Trump voters continue to support him, but not all. He hasn't attracted many new voters. He should be fortunate that the economy has been pretty good, even though it is not because of what he has done. People feel better about the economy, so that has helped Mr. Trump a lot. Ultimately, I don't believe Mr. Trump can fulfill the promises to the Rust Belt voters. For example, I don't think steel mills are going to come back to Ohio or Pennsylvania. The key is retraining people or helping them move to where there are jobs. We don't want to discourage people from moving because it is not advantageous to tell someone to stay put because things will get better in their area. Mr. Trump's solutions were false solutions to the problems, but people prefer false solutions more than no solutions. The other candidates didn't know what to do. It is not helping people by pretending that coal mining is going to continue and be the future of America. We still do a lot of coal mining in America, but it's not going to increase given natural gas and other forms of energy, and we don't want it to increase.

A lot of people worked hard in coal mines and died at a young age of black lung disease and other medical problems. There are terrible accidents in

coal mines. We can understand if coal mining is a legacy in your family, but it is not responsible to tell people that the coal mining jobs are coming back. There are many areas in which we haven't done as good a job as we should have, especially in things like education and job training. Mr. Trump was able to take advantage of that.

Q3 Participant: Please discuss the relationship between President Putin and President Trump.

Kristol: Mr. Putin is a very bad actor and both parties agree. In fact, the Republicans were critical of Mr. Obama for not being tough enough on Mr. Putin. Mr. Putin thought he could get away with the invasion of Ukraine in 2014. He also invaded Georgia in 2008. He has gotten away with things in the past, but his country is not in good shape. A good way of getting public support is to have fights claiming to expand and rebuild the great Russian Empire. It is not a good sign for America that Mr. Putin has been able to flex his muscle around the world. It is also worrisome that if people look at China and Russia, they believe their ways are the ways of the future.

We don't want people, governments, and political leaders around the world to get the idea that the path of Mr. Xi Jinping and Mr. Putin is the right path to take. We have not been as effective as we could have been in making that path look unattractive. Mr. Putin is an unacceptable leader interfering in our elections and other elections in Europe. I think a tough stance against Mr. Putin is important, but it seems difficult to carry out under Trump administration.



米国ユダヤ人協会 / American Jewish Committee (AJC)

米国ユダヤ人協会は1906年11月11日に設立されたユダヤ民族アドボカシー団体です。その種として米国では最も古い団体の一つで、ユダヤ人の宗教の権利、市民権を推進することが主要な活動内容です。AJCは、米国に22の地域事務所及び11つの海外事務所があり、また世界中に35のユダヤ系共同体組織との国際パートナーシップを結んでいます。

American Jewish Committee (AJC), established in 1906, is one of the oldest Jewish advocacy organizations in the United States. Its key areas of focus are to promote religious and civil rights for Jews internationally. The organization has 22 regional offices in the United States, 11 overseas offices, and 35 international partnerships with Jewish communal institutions around the world.

米国ユダヤ人協会アジア太平洋研究所 / AJC Asia Pacific Institute

AJCのアジア太平洋研究所（API）はニューヨークに本部があり、ワシントン D.C.、インド、日本、東南アジアに代表事務所を持ちます。APIは東南アジアおよび米国における政府関係者や、市民社会、メディア、ビジネスリーダーに働きかけ、ユダヤ人やイスラエルに対しての意識を高め、政治的提携、経済的協力、相互利益に関わる問題の対話を進める活動を支援しています。

AJC's Asia Pacific Institute (API) is based in New York, with representation in Washington, D.C., India, Japan, and Southeast Asia. API engages influential government, civil society, media, and business leaders in the Asia-Pacific region and in the U.S., raising awareness about the Jewish people and Israel, and fostering favorable political alliances, economic links, and dialogue on issues of mutual interest.

国際交流基金日米センター / The Japan Foundation Center for Global Partnership (CGP)

日米が共同で世界に貢献し、緊密な日米関係を築くことを目的として、1991年に国際交流基金に設立されました。両国のパートナーシップ推進のための知的交流と両国の相互理解を含めるための地域・草の根交流の2分野で交流事業を行っています。

<http://www.jpff.go.jp/cgp/>

The Center for Global Partnership (CGP) was established within the Japan Foundation in 1991 to promote collaboration between the people of Japan, the U.S., and beyond in order to address issues of global concern. CGP organizes or provides funding for collaborative projects to strengthen the global U.S.-Japan partnership and to cultivate next generation of public intellectuals to sustain this partnership.

<http://www.jpff.go.jp/cgp/e/>

 **国際交流基金日米センター**
〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-16-3
TEL: 03-5369-6072 FAX: 03-5369-6042
URL: <http://www.jpff.go.jp/cgp/>
The Japan Foundation
Center for Global Partnership
国際交流基金日米センター

2018年10月発行 / 無料 ©2018 国際交流基金日米センター
Printed in Japan
無断転載、複写を禁じます。

本講演会の内容や意見は発表者個人のものであり、日米センターの見解を示すものではありません。
The content of the lecture is personal and does not necessarily reflect the views of CGP.